

国内未承認ワクチンを接種される方へ

Tdap：破傷風・ジフテリア・百日咳の3種混合ワクチン（Boostrix；GlaxoSmithKline 社製）

日本では昭和44年から3種混合ワクチン（DPT：破傷風・ジフテリア・百日咳）が乳幼児期の定期接種に使用されてきましたが、2012年（平成24年）11月1日からは4種混合ワクチン（DPT-IPV：破傷風・ジフテリア・百日咳・ポリオ）が導入されました。ただ、乳幼児期以降の追加接種は現在でも、11-13歳時に2種混合ワクチン（DT：破傷風・ジフテリア）を接種するのみで、それ以降は接種されていません。一方、諸外国では10年毎にTd（ジフテリアの抗原量を減らした破傷風・ジフテリアのトキソイド）やTdap（ジフテリアや百日咳の抗原量を減らした破傷風・ジフテリア・百日咳の3種混合ワクチン^注）で追加接種を行っています。つまり、日本ではDPT（あるいはDPT-IPV）やDTで定期接種を受けていても、成人のある時期からは破傷風・ジフテリア・百日咳に対して十分な免疫力をもたないことになり、その時期でのTdapでの追加接種が望まれます。また、米国などに留学する際には、Tdapの過去10年以内の接種を要求されることもよくあります。接種方法は0.5mlを筋肉内に注射します。最も多い副反応としては、接種局所の痛み、発赤、腫れなどで、頭痛や倦怠感がみられる場合もあります。

注：思春期以降の人に、ジフテリアトキソイドや百日咳ワクチンを、小児と同等量を接種した場合、腫れなどの局所の副反応が生じるため、それらの抗原量を減らした3種混合ワクチン。

輸入ワクチン副作用被害救済補償制度

日本国内で承認されているワクチンは予防接種法、施行令によって健康被害に対する救済制度が確立していますが、日本国内未承認ワクチンについてはその救済制度は対象外となります。そのため、国内未承認ワクチンの副作用に関する救済補償制度は、当院がワクチンの輸入を依頼している代行業者による独自の補償制度に従うことになります。

（重工記念長崎病院 渡航外来 門田 耕一郎 電話：095-801-5800 Fax：095-801-5810）